

平成25年度自己点検自己評価(平成25年4月1日～平成26年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	学校運営にあたり、一番大切にしていることが、ミッションと理念である。これを基に、作成している事業計画があるからこそ、健全な学校運営ができていく。事業計画で考える中期計画は、学校の未来を表現したものであり、そこで考えられた組織目的、運営方針、実行計画が学校の成長につながってきた。また理念、経営者の言葉、学校の考え方や組織文化を、さまざまな形で文書化し、組織内に浸透させることにより、新たに組織に入ってくる人にも自然に伝わっており、このことが、学園、学校の活性化につながっていると考えている。	学校法人滋慶学園は「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことをミッション(使命)としている。建学の理念①(来学教育)②(人間教育)③(国際教育)を實踐し、かつの信賴 ④(学生・保護者からの信賴)⑤(高等専修からの信賴)⑥(業界からの信賴)⑦(地域からの信賴)を得られるよう学校運営をしている。建学の理念に基づいて、東京ベルエポック製菓調理専門学校は顧客の多様な個性に対応できる者と健康の総合コーディネーターを養成することを開校の目的に掲げている東京ベルエポック製菓調理専門学校は、入学前から卒業後に至るまでの「体験しながら学ぶ」教育プログラムを通じて、「やる気」と「働く意欲」を失わず、後分野で長く活躍する人材を養成することを開校の目的として掲げ学校運営をしている。	3.0		
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する競争等の人材ニーズに適合しているか						
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか						
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか						
2 学校運営	2-2 運営方針は定められているか	3	法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意図で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。	事業計画の構成 ①組織目的(普遍的に学校を目指す開校、組織運営の目的) ②運営方針(中期的に組織の運営方針を定めていく方針) ③実行方針(中期的に組織の運営方針を定めていく方針) ④定員目標(受験者、教育成果(中途退学防止、欠席率、資格取得率、就職率、専門就職率)) ⑤定性目標(人材育成や組織あり方等定性的な目標についての定性的目標) ⑥実行計画(その方針を実現するための詳細計画) ⑦組織図(単年度) ⑧職務分掌 ⑨部署ごとの計画及びスケジュール ⑩附帯事業計画 ⑪職員の業績評価システム ⑫意思決定システム ⑬収支予算書(3ヵ年計画)	3.0		
	2-3 事業計画は定められているか	3	作成した事業計画は、各課の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・課別会議等)を行い、全教職員が納得して学校運営に関わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努めている。				
	2-4-1 運営組織や意思決定機能は、効果的なものになっているか	3	意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年事業計画策定という重要な作業があることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。				
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか						
	2-5 人事や資金での処遇に関する制度は整備されているか	2	採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。また、その後の教職員の育成には、OJT制度をはじめ職能に応じた研修を整備している。そして、全教職員は目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や資金決定が行われている。	数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務(例えば、入学式・卒業式担当、行事担当、学生挨拶推進担当、清掃運動担当など)も過程を評価できるようなプロセス評価を導入している。評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつけるようになっている。また、職員の職場に関するアンケートも実施。理念、目標の理解度や、職場満足度、各部署の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。			
	2-6 意思決定システムは確立されているか	3	意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年事業計画策定した組織と意思決定システムを連動させることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。また、会議の進め方、結果の取り扱いを重視している。常に「何のために」を意図して会議を実施しており、議論に必要な資料は、担当者が事前にデータ分析などを行い、準備している。また、会議で決定されたことは次回会議で進捗状況を振り返ることで、遅れや進捗出ないという工夫している。	会議の構成は以下の通り。 1. 法人理事会・評議員会 : 最高決議機関 2. 学校戦略会議 : 運営方針の起案会議 3. 法人学校運営会議 : 運営方針の問題点を発見・対立して会議 4. 運営会議 : 学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議 5. 学校全体会議 : 決定事項の周知 6. 学校学務会議 : 部署会議 : 部署の問題解決会議 7. フルーツ各委員会会議(保健委員会・福祉委員会・就業委員会・職業訓練対策委員会・広報委員会・個人情報保護委員会・学科学術研究委員会・災害対策委員会・カンパニッシュ委員会)等 8. 様々なプロジェクトの会議			
2-7 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	専門学校基幹業務システム(IBM社製)5(アイファイブ)上に構築により管理している。管理項目は以下の通り。 ①学籍簿管理 ②時間割管理 ③成績・出席管理 ④学費管理 ⑤入学希望者及び入学学生管理 ⑥各種証明書管理 ⑦求人企業管理 ⑧就職管理 ⑨卒業生管理 ⑩学校会計システム ⑪人事・給与システム ⑫フォーム・ハンクシステム ⑬研修旅行管理システム ⑭常管理システム ⑮健康管理システム、等により構築されている。	特に、学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にブレがないようにシステム構築をしている。そのことが、退学防止、就職支援へとつながっている。				